クリプト菌門の共通性と特異性 —西日本の淡水湖沼における菌類多様性—
○西尾早生 1)・阿賀由侑子 1)・藤井利江 1)・安井沙英 1)・六田早織 1)・島村繁 2)・西真郎 2)・小林英城 2)・長濱統彦 1) (1)ノートルダム清心大; 2)海洋研究開発機構)

西日本の天然および人口湖沼における菌類多様性の調査を目的に、大芦池（岡山県美作市）、藤波池（岡山県浅口市）、常盤池（山口県宇部市）、豊田湖（山口県下関市）、小田の池（大分県由布市）、志高湖（大分県由布市）、御池（宮崎県都城市）計7地点で堆積物を採取した。これらよりDNAを抽出した後、菌類SSU rDNAを特異的にPCR増幅し、PCRクローンのサンガーシーケンシングにより菌類の多様性を推定した。
全667クローン取得し、うち99%相同なOTUは264であった。このうち、約3割（79OTUs）がクリプト菌門に属していた。クリプト菌門に属する菌類クローンは全ての地点から出現したが、その割合は、各湖沼の間で3%～78%まで大きく変動していた。
さらに、全264OTUsのうち、27OTUsが複数湖沼に共通に存在し、6OTUsが3湖沼以上に共通に存在した。これら普遍的に存在すると考えられる6つの系統のうち、4つがクリプト菌門（Cryptomycota）に属していた。
一方、各湖沼に特異的に表れたOTUは計222（84%）であった。うち、クリプト菌門は約3割、Dikarya（子嚢菌門+担子菌門）は約4割を占めた。極めて多様なクリプト菌門が、淡水湖沼において普遍的に存在し、かつ優占していることが明らかになった。
本文を英文所属から2行あけ左インデントで上書きしてください。このファイルの書式設定を変更しないでください。このファイルの書式設定ならびに要旨の書き方の詳細は以下の通りです。

用紙：A4縦置き、拡大縮小なし
余白：上20 mm；下168 mm；左25 mm；右25 mm；とじろなし
フォント：日本語はMS明朝；半角英数字はTimes New Roman；ともに9ポイント
字数×行数：45字×25行（タイトル・所属などを含む）
配置：1行目に題目、2行目以降に氏名（所属）、3行目は英文題目に続いて英文氏名（英文所属）を記述し、これらの行のみ左インデント幅7文字。和文題目は太字で記述して下さい。
題目、所属などが長くなった場合は、本文を短くして全体で25行となるよう調整して下さい。
ファイル：MS-Word形式としてファイル名を英小文字で第一著者の姓＋名前の頭文字とする。本ファイルの場合は、「tanshih.doc」です。
その他：
・所属の記載を日本語では公称略記で10字以内を目安とし、英語では部署・専攻名を省く。
・所属が複数になる場合、氏名の後と所属の前にそれぞれ上付数字を付ける。
・発表者（演者）の前に「o」を付する。
・学名は斜体。
・句読点を「.」「,」とする。